

ひとを育てる活動

卒業、進学おめでとう！—里親として、また、奨学金支援で支えていただいた皆様ありがとうございました！

SCMSI 経由カレッジ里子・奨学生	支援会員
Ma. Luz. Aban (SCMSI 地域開発科)	上杉様
Maribel Blahing (")	杉浦様
Norberto Salif (")	温品様
Kristy Bongon (")	森 様
Neko Kento Kina (Regency 大 海運科)	古川様
Xervinz Delilon (Magsaisai 大 警察科)	HANDS

SCMSI 経由ジュニアハイスクール里子	支援会員
ShaneEj Tamonggal (外部シニア HS へ)	若松様
Bonjovie Fedong (SCMSI シニア HS)	聖北様
Chizza Jain Alie (SCMSI シニア HS)	桂 様
Kenmark Unggad (SCMSI シニア HS)	菅澤様
Donex Ralf Mofak (SCMSI シニア HS)	野々垣様
Jance PrulaTaabidad (SCMSI シニア HS)	佐々木様
Lorheacent Pablo (外部シニア HS へ)	佐藤様

SCMSI 小学校卒 Jennelyn Dawang	西 様
----------------------------	-----



国立 MSU 付属シニアハイスクールへ転出を決めたロレルヘセント



外国航路の船員を目指すネコ・ケント

PFPP 経由あしなが奨学生

元 FOT の会の 5 名の会員で支えていただいたあしなが奨学生 2 名のうちの 1 人、ブラケール出身のバレンチノも無事スルタンクダラト大学農業経営科を卒業しました。公務員を目指しています。



CMIP 経由カレッジ奨学生	支援会員
Ryan Tolindon (GFI 教育学部数学科)	和田様
Lorena Salway (GFI 教育学部英文科)	山崎様

(ハイスクール、小学校卒業生情報は現時点で未入手)



新卒のロレーナ(左)とライアンは、CMIP 小学校で 1 年間ボランティア教師をしながら、教師国家試験(LET)に挑戦の予定です。



1980 年の千ボリ国際里親の会/JOFPA 設立時から続く SCMSI 里子・里親システムについて

— 「子どもが生まれて家計は厳しいが、里子の卒業まで頑張りたい。あと何年ですか？」の問い合わせに応じて — これまでも個別に対応させていただいてきた「里親」としてのご心配や疑問について、以下、まとめてみました。

1) 里親が退会しても、里子は学業を継続できる。

里子には、授業料他校納金免除の特典があるため、里親が退会すると、小学生で月 400-500 円、ハイスクール生は 800-1,000 円程度が自己負担となり、子どもが多いと大変です。しかし、教育の普及で子どもの数が減り、2017 年度里子現況報告では、53 世帯中、子どもが 5 人以上は 21、4 人以下は 32 で、うち 10 世帯は 2 人以下でした。また、現金での授業料納入が難しい場合、少なくとも小学生については、給食用バナナやイモ類持参で学校を続けることができます。

2) 里子の中には、校納金免除の特典が不要なケースもある。

今回の問い合わせのケースを確認したところ、里子は昨年度、SCMSI の 10 年生修了後、公立のシニアハイスクールに転出したことが分かりました。すでにお伝えのように、新教育制度の下、カレッジでの専攻コースとの関係で、SCMSI ジュニアハイスクール (7-10 年生) 修了後は、外部のシニアハイスクール (11-12 年生) を選択する里子が増えています。

SCMSI 校を去れば原則として「里子」でなくなります。ハイスクールの 1,000 円近い校納金免除特典がなくなります。

シニアハイスクールでの転出増は、「里子特典」がなくても学費を支えられる家庭が増えたという喜ぶべき現象です。

3) 里子・里親方式で始まった教育支援の成果を踏まえて、今後の協力の在り方を考える。

里親制度発足当時は、里子との関係は精神的なつながりで、里子の授業料免除特典もありませんでした。里親は里子の成長を見守る中で、「教育は力」を確認し、月 2,000 円で SCMSI の学校増設や教師給与を支えました。

今は公立校も増えて、レイクセブ町では一部辺境を除き、ほぼすべての子どもに、初等、中等教育への門戸が開かれました。

長い教育支援が、女性の地位向上、子どもの数減少、現金収入源増加という実を結び、教育費負担が可能な家が増えました。

当団体が JOFPA の活動を引き継いで 6 年になります。高齢等による退会が増えるなか、SCMSI 校支援も漸減し、今年度は月額 6.5 万ペソ (約 14 万円) としました。JOFPA 発足の 1980 年から数えて 40 年になる 2020 年度を最後に、改めて現地のニーズを確認し、支援方法を検討したいと思います。今しばらく、里子と学校運営支援にご協力をお願いします。 (山崎)